農 山 村 過 疎 地 域 に お け る 転 出 ・帰 還 行 動 の

モデル化に関する基礎的研究

A DYNAMIC OUT/IN-MIGRATION MODEL FOR RURAL DEPOPULATION PROBLEMS

片田敏孝\*・廣 畠康裕\*\*・青島縮次郎\*\*\*

本研究では, 農山村における転出 ・帰還行動をとりあげ, まず, その行動メカニズムの考 察とそれに基づく定住施策評価 のあり方を検討した. ここでは, 過疎対策の効果についての考察を行い, 過疎問題の根本的解決には効果的な定住施策がより重要であることを述べ た.。効果的 な定住施策 を実施す るうえで必要 となる転 出 ・帰還行動 モデルにっ いて, その構造が いかにあるべ

表一6 昭和55年 従業地選択の推定結果 (前期条件あり, 将来効用考慮)

きか を検討 し, この検討 を踏 まえたモデルを作成, 適用 した結果, 以下 のような知 見が得 られた.

(1)農 山村における転出・帰還行動では, 家産の継 承行為 が大 きな意味 をもち, モデルの作成 においてはこ れ を反映 した説明変数 として, 続柄 やすでに継承 した兄 弟の存在 の有無 などを組 み込む ことが有効 であ ることが 確 認 された.

(2)転 出 ・帰還行動 は広域的な居住地選択行動 と考 え られるため, 従 業地や世帯構成の選択 も同時に考慮す

る必要 があることが実証 された.

(3) 農 山村住 民の転 出 ・帰還行動 に関する意思決定

の構造 は動的であるこ とがほぼ確認 された. したが って,

転 出・帰還行動モデル には, 予測時点の要因のみでなく, 前期 の選択状態 と将来効用 とを考慮す るこ とが望 ま し

い.

なお, 本研究 の最終的な 目標は, 定住施策評価 を行 う ためのモデル開発 であ る. そのため, 本研究で作成 した モデル をより実用的 なモデル としてい くためには, 多 く の検討課題 が残 されてい る. これ らの検討課題 とは, (1) 定住施策 と直接的に対応す る政策変数 の扱い方 を検討す ること, (2)定住施策の効果 は, 個 人の資質等に よって大 き く異なることも考 え られ るため, た とえば技能や資格 な ど, 本研究で取 り上 げたもの以外 の個人属性 について も導入を検討す ること, (3)行動主体 の将来に対す る認識

構 造につ いて, より詳細 な検討を行 い, モデルに反映 し てい くこ と, (4)計画代替案のインパ ク ト分析や, 行動結 果 デー タの相関が大 きい場合 に適す ると考 えられ る選好 意識 デー タの導入の可能性 を検討す ること21),22)な, どで

ある.

謝 辞: 本